

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500043		
法人名	株式会社 アメニティサービス社		
事業所名	グループホーム あいあい		
所在地	岡山県笠岡市白石島455番地		
自己評価作成日	平成22年11月18日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390500043&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390500043&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年11月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日毎に表情を変える海を眺めながら、のんびり、ゆったりした時間を過ごしていただけます。</li> <li>・ 愛に溢れたおもてなしの心で入居者に接しています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>何と大自然の瀬戸内海に面した海水浴場の中央にこのホームがある。海水浴シーズン以外は貸切りの広場もある。朝は外の長椅子で風に当たったり、散歩もできる。岡山県には残念ながら瀬戸内海の島々がここにしかないが、離島とは言っても25分で笠岡市まで行ける。バリアフリーの旅館をそのまま一部改修してグループホームに使っているが、利用者は旅館の客室を使用し、リビングルームは和室の宴会場を使っていて、一番ゆったりとした生活をしている身分である。ハード面は岡山県内最高の豊かさだろう。ホームを開設して3年目を迎えた。ホームの職員の体制も整え、社長の奥さんが中心になってケアの質の向上とケアマネージメントの改良に取り組んでいる。出来るだけ利用者との関わりを大切にしたいホームが実現すると期待している。この環境の中で1ユニットのG、Hだけでは勿体ない。これを基盤にしてもう少し事業の拡大をして、本土から島へ、リゾート気分で利用者が移れるようになると素晴らしいと思う。</p>
---

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念を理解し、話し合い、意識して実践するよう努めています。</li> </ul>	<p>「愛に溢れたおもてなしの心を大切に」という理念のもと職員全員が生活全般にわたり入居者の意志を確認、尊重し希望を受け入れ、入居者も我が家に居るように思い思いに過ごしていた。そしてマネージャー以下全職員の向上していこうとする意欲を感じた。</p>	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>島の中での行事や各種団体からの案内がある行事には、全員は無理でも参加できるようにしている。</li> </ul>	<p>夏の盆踊り、秋祭り、小、中学校の学芸会等島の行事には出来る限り参加して、事業所が地域の一員として日常的に交流している。</p>	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所自体の充実を図っているので、地域貢献の面はこれからの課題です。</li> </ul>		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年の外部評価の提案をもとに節分(巻き寿司作り)やぎょうざ作りと組み合わせ実施しました。</li> </ul>	<p>昨年の外部評価の提案で、推進会議をホームの行事と組み合わせ開催したところ、推進会議のメンバーに入居者の様子を見てもらえ、「ホームの実情が理解できてよかった」と参加者にも好評だった。</p>	<p>目標達成計画は実施できたが運営推進会議には地域の主だった方が集まっているので、ホームの内容や認知症等をより理解して頂く為にも防災訓練等の具体的な行事と合わせて開催し、年6回開催を目指してもらいたい。</p>
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の介護保険課、生活福祉課等と連携をとっている。</li> <li>地域包括支援センターや社会福祉協議会とも協力し合っている。</li> </ul>	<p>推進会議に笠岡市の職員2名が参加して下さり、折に触れ市介護保険課、生活福祉課等と連携を取り合っている。また、地域包括支援センターや社会福祉協議会とも協力し、入居者を受け入れている。</p>	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護現場での具体的な事例を取り上げて、必要に応じてミーティングを開き、職員の意識を高めている。</li> </ul>	<p>身体拘束について職員同士よく話し合っている。また、ミーティングでも具体的な事例を取り上げて話し合い、共通認識を持つようにしている。</p>	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。</li> <li>職員の認識も高まってきている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携をとることによって理解を深めている。</li> <li>・ 生活保護を受けておられる方も受け入れている。</li> </ul>		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設長が説明し、話し合いの場を設けている。</li> <li>・ 理解、納得して頂いて契約を結んでいる。</li> </ul>		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入居者の希望、不満、家族の意見、要望等を聞き、理解し、受け入れるよう努めている。</li> </ul>	<p>家族との連絡は電話や面会時に行うが、家族が甥の嫁とか縁の薄い人が多くなってきて面会に来る方も限られてきている。生活保護を受けている人も積極的に受け入れている。どんな人、家族からも自由に意見を聞くようにしている。</p>	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じてミーティングを開き、意見、提案を聞いている。</li> </ul>	<p>オーナー夫人がマネージャーの立場で現場に入り、職員の生の声を聞き、チームワークの良い運営に反映している。朝夕の申し送り時を中心に意思伝達、情報交換をし、必要によっては随時ミニミーティングをして職員と共にケアの向上を計っている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス残業のないように休日振替等により調整しています。</li> </ul>		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人以外の研修にも頻回ではないが参加している。</li> <li>・ 法人内での研修は、機会を捉え行なっている。</li> </ul>		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開設に当たって協力して頂いた事業所との交流は大切にしている。</li> <li>・ 他の地域の事業所等を見学している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前面接で得た情報を共有し、入居者が混乱することのないよう努めている。</li> <li>・ 入居者との関わりを深め、必要を理解するよう努めている。</li> </ul>		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約締結時に十分話し合えるようにしている。</li> <li>・ 問題が生じた場合は、その都度話し合い、理解を深めている。</li> </ul>		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族が助けを求めている急遽の入所のケースが多いので、家族の希望を聞き、対応している。</li> </ul>		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機会がある度に、入居者に感謝の言葉を掛け、気持を表し、支えられている事を示している。</li> </ul>		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最低でも、月に1回の面会の機会を作っていたくようお願いしている。</li> <li>・ 面会が無理な家族には電話をかけている。</li> </ul>		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を出来るだけ多く取り入れ、支援に努めている。</li> </ul>	<p>入居者の中に「自分はここに働きに来ている」と思い込んでいる方が居たが、その方にはその気持を大切に、その方のできる野菜の皮むき、盛り付け、配膳、皿洗い等とどし手伝ってもらっていた。</p>	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入居者一人ひとりが落ち着かれる場所がそれぞれあるので、好みを大切にしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>亡くなられて退所されるケースがありました。</li> <li>これからの課題です。</li> </ul>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者本位を常に考え、必要が生じた場合、ミーティングを開き話し合っている。</li> </ul>	お茶や食事の時は食堂に誘うが、本人の意志を確認尊重し、無理強いはいしない。玄関フロアで寝たい方にはフロアで横になってもらっていた。他の利用者が風邪をひかないよう毛布を掛けていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人や代理人(家族)からの情報を集め、記録してまとめている。</li> </ul>		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所当時は出来るだけ細かい行動記録をとり、理解を深めている。</li> <li>入居者の状態に合わせて記録様式を変えている。</li> </ul>		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>(入居者)家族や、関係者との話し合いや意見交換をしている。</li> <li>介護計画に基づいてのケアを心掛けている。</li> </ul>	21年度目標達成計画の中で「利用者とのコミュニケーション」「モニタリングの質の向上」を目指し、改良を加えた。それを活かして日頃からご本人の思いを聞き、ケアマネジャーが中心となり介護計画を作り、職員みんなです話し合っている。	目標計画も達成できたが、ケアプランと介護記録の仕方を一体化し連動させるようなシステムにして、効率の良い記録に集中出来る様式と方法を見出してもらいたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の必要に応じた記録にするため様式を変え、情報を共有しながらケアに活かすよう努めている。</li> </ul>		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>面会時と地域の催しが重なると、共に参加、見学の機会としている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>島の駐在所の警察の方に連絡を取り、入居者の安全を守っていただいています。</li> <li>JＡの購買部や雑貨店の協力もあります。</li> <li>パッチワークの経験者に来てもらい楽し</li> </ul>		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>島の診療所の医師が2週間毎に往診して下さっています。</li> </ul>	島の診療所の医師が定期的に往診してくれている。かかりつけ医はターミナルケアに協力している。何よりもかかりつけ医がざっばらんな方なので気軽に相談できるのが有難い。訪問看護は市内病院のステーションと契約している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員として看護師も働いて入りので、細かい配慮が出来ていると思います。</li> </ul>		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>本土の病院にお願いしています。</li> </ul>		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>終末期ケアを受け入れています。</li> <li>医師の協力と家族との話し合いを密にし、入居者の安心、安楽を中心に取り組んでいます。</li> </ul>	家族との話し合いを重ね、かかりつけ医も終末期ケアに協力してくれるので、ホームでは既に3例の看取りを経験している。いずれも眠るように安らかな最期を迎える事が出来、家族の方達も満足している。単独世帯や老夫婦世帯が多いだけに今後のホームの存在は重要な役割となりそうだ。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な訓練は出来ていません。</li> </ul>		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災の避難訓練を消防署に協力をお願いし、実施し、指導して頂きました。</li> </ul>	21年度にスプリンクラーも設置し、消防署の協力のもと避難訓練を実施した。今後、推進会議でも災害対策を課題に取り上げ、避難訓練を実施していきたい。近所の人も空家が多い状態なので夜間はホーム内に宿直者も配置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の尊厳を守る事は機会がある度に話し合い、注意し合っています。</li> <li>入居者への関わり方や言葉掛けに十分注意を払うよう努めています。</li> </ul>	<p>毎日の基本的な生活プランはあるが、あくまでも個人の行動を尊重している。本人の希望や体調に合わせて自由な行動をしている。例えば食堂で食事を食べたくない人には、部屋で個別に食事介助をしていた。</p>	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者同士がリラックスして話している内容にも注意を払い、それぞれの希望の把握に努めている。</li> </ul>		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節の変化によって入居者の希望も変わるので対応している。</li> </ul>		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの好みを知るよう努め、情報を共有し、支援に努めている。</li> </ul>		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の準備、配膳など出来るだけ入居者と共に行なうようにしている。</li> <li>職員も共に食卓に就き、楽しく食べるよう努めている。</li> </ul>	<p>柿の皮むき、盛り付け、配膳等一人ひとりの力を活かし、入居者が出来る事はどしどし手伝ってもらいながら利用者と職員と一緒に準備や食事を楽しんでいた。後片付けも一緒にやっていた。</p>	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事摂取量、水分摂取量を記録し、変化に対応している。</li> <li>入居者の状態に合わせて食事形態を変えている。</li> </ul>		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>うがい、義歯洗浄、歯磨きなど、入居者一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ 排泄記録、生活記録から必要なケアを話し合い、入居者の状態の変化に目ざとく対応するよう努めている。	一人ひとりのサインや排泄パターンを把握して、声掛けや誘導をしており、入居者全員が便座に座り排泄できるようにしている。また、記録も一目見て分かるように工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ 個々の記録、ホーム日誌に排便状況を記入し留意する。 ・ 食事内容も野菜を多くし、繊維質を取り入れる工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・ 入浴予定を立てるが、その日の体調と気分に合わせて、本人の意向を尊重している。	大小2つの風呂場があり、2日一度の入浴を基本としているが、その日の気分や体調で入浴を拒否する人も居る。しかし入浴を無理強いせず、大便後やパンツを替える時に清拭して、衛生的な生活が出来ている。	体調や気分により入浴拒否する方には本人の意向を尊重しているが、入浴はコミュニケーションの絶好の機会なので、せめて1週間に一度以上は入浴を促すよう工夫して欲しい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ 気持ちよく休んで頂けるようエアコンで部屋の温度、湿度を管理している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ 「薬の事典」を活用している。新しく処方された薬がある場合は情報を共有し、把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ 食後の食器の片付けも日課になっているが、負担にならないよう配慮している。 ・ カラオケ・ジグソーパズル、パッチワークなど楽しんでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・ 散歩は自由に行なってもらう。 ・ 遠方へは車で共に出掛けている。	入居者のその日の気分により、散歩は自由に行ってもらっている。花見に行ったり、学校での学芸会、公民館祭り等地域の行事にも出掛ける。ホームの前は自然の海水浴場で、シーズン以外は全部私達の場所である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ 金銭の所持は自由にしてもらっています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ 入居者の希望に応じて電話は掛けてもらっている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ 空気清浄機を作動させ、感染予防にも努めています。	元旅館の立派な床の間のある大広間に座り、心地の良い椅子やコタツが置いてあり、それぞれお気に入りの場所に座ってお喋りしたり、テレビを見たり、思い思いにゆったり過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ 入居者のお気に入りの場所があるので、尊重し対応しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ 居室内は本人の意向を尊重し、居心地良く過ごせるよう配慮している。	本間8畳の畳敷きの広い部屋にベッドやポータブルトイレ、使い慣れた家具を置き、自分の作品等を飾り、居心地良く安心して暮らせるよう工夫されている。玄関の広間を我が家にして寝ている人も居る。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ 手摺も必要に応じて増設したり、水道の栓はレバーにしています。		